

Q 計画の対象者は

A すべての市民です



ライフコースアプローチ(人の生涯を胎児期から高齢期に至るまで連続的に捉え、健康づくりに取り組むこと)の概念を意識しながら、5つのライフステージと5つの分野に分類しています。それぞれの中間評価の結果は下記のとおりです。見直しや今後の方向性は見開き中ページのとおりです。

ライフステージ(基本方針1)

乳幼児期 (0~5歳)

むし歯ゼロの子どもの増加◎仕上げみがきをしている割合は若干悪化

- 静岡市の子どものむし歯は年々減っており、10年前の3歳児では約7人に1人にむし歯がいましたが、現在では、約16人に1人まで改善し、国と比較しても少なく、良い状況です。
- 毎日仕上げみがきをしている1歳6か月児は9割を超えています、その割合は年々悪化しています。

本書は P24~

学童期 (6~12歳)

未治療のむし歯や歯肉炎のある人は改善◎歯の健康教育を行う学校は減少

- 治療をしていないむし歯がある小学4年生の割合は、45.1%(R1)→31.7%(R4)と減り、改善が見られました。
- 歯科医師などによる歯の健康教育を行う小学校は21.6%(R1)→14.6%(R4)と悪化しています。

本書は P35~

思春期 (13~19歳)

デンタルフロスの使用者は◎むし歯は改善しているが、未治療の人も

- 中学1年生でむし歯のある生徒は年々減り、10年前の約3人に1人から約8人に1人まで改善しました。
- 一方で、治療をしていないむし歯がある人は、中学1年生で4割、高校1年生で3割見られます。
- 歯と歯の間の汚れをとるデンタルフロスは2人に1人が使用と前回調査より改善が見られました。

本書は P44~

成人期 (20~64歳)

歯科健診を受ける人が増加◎一方で噛みづらいと答えた方も増加

- 年に1回以上定期的に歯科健診を受ける人は、20~29歳、30~44歳、45~64歳の順に少ない状況ですが、6年前と比較するといずれの年代でも改善が見られ、20~29歳は37.1%でした。
- 何でも噛んで食べられると回答した50代前半は8割を超えています、年々悪化傾向にあります。

本書は P53~

高齢期 (65歳以上)

“口の乾き”や“むせ”などお口の機能に関する症状のない人が増加◎

- 「口が乾く」「食事中にむせる」「飲み込みにくい」「噛むのが大変」などお口の機能に関する症状のない人が52.0%(H2B)→80.1%(R4)と大きく改善しました。
- 年に1回以上定期的に歯科健診を受ける人は他の年代と比べて多く、65~74歳で56.5%でした。

本書は P73~

障がい児・者

障害福祉サービス等事業所でかかりつけ歯科医を持つ人は6割程度で、年度によって増減はありますが、ベースライン値と比較すると悪化しています。

本書は P84~

要介護者

介護保険施設で定期的に歯科健診を実施している施設は28.0%(H30)→46.2%(R5)、歯科保健指導を実施している施設は、24.0%(H30)→47.7%(R5)と改善しました。

本書は P94~

妊産婦

妊娠中に歯科健診を受けた人は、46.2%(R1)→51.2%(R4)と改善しました。

本書は P97~

入院患者

手術前後の口腔ケアの重要性の周知啓発があまりできていないため、今後は様々な機会に周知をします。

本書は P100~

被虐待児

気になる児童がいた際に適切な支援につなげられるよう歯科医師会と連携し、体制を整備します。

本書は P101~

分野(基本方針2)

障がい児・者

障害福祉サービス等事業所でかかりつけ歯科医を持つ人は6割程度で、年度によって増減はありますが、ベースライン値と比較すると悪化しています。

本書は P84~

要介護者

介護保険施設で定期的に歯科健診を実施している施設は28.0%(H30)→46.2%(R5)、歯科保健指導を実施している施設は、24.0%(H30)→47.7%(R5)と改善しました。

本書は P94~

妊産婦

妊娠中に歯科健診を受けた人は、46.2%(R1)→51.2%(R4)と改善しました。

本書は P97~

入院患者

手術前後の口腔ケアの重要性の周知啓発があまりできていないため、今後は様々な機会に周知をします。

本書は P100~

被虐待児

気になる児童がいた際に適切な支援につなげられるよう歯科医師会と連携し、体制を整備します。

本書は P101~

障がい児・者

障害福祉サービス等事業所でかかりつけ歯科医を持つ人は6割程度で、年度によって増減はありますが、ベースライン値と比較すると悪化しています。

本書は P84~

要介護者

介護保険施設で定期的に歯科健診を実施している施設は28.0%(H30)→46.2%(R5)、歯科保健指導を実施している施設は、24.0%(H30)→47.7%(R5)と改善しました。

本書は P94~

妊産婦

妊娠中に歯科健診を受けた人は、46.2%(R1)→51.2%(R4)と改善しました。

本書は P97~

入院患者

手術前後の口腔ケアの重要性の周知啓発があまりできていないため、今後は様々な機会に周知をします。

本書は P100~

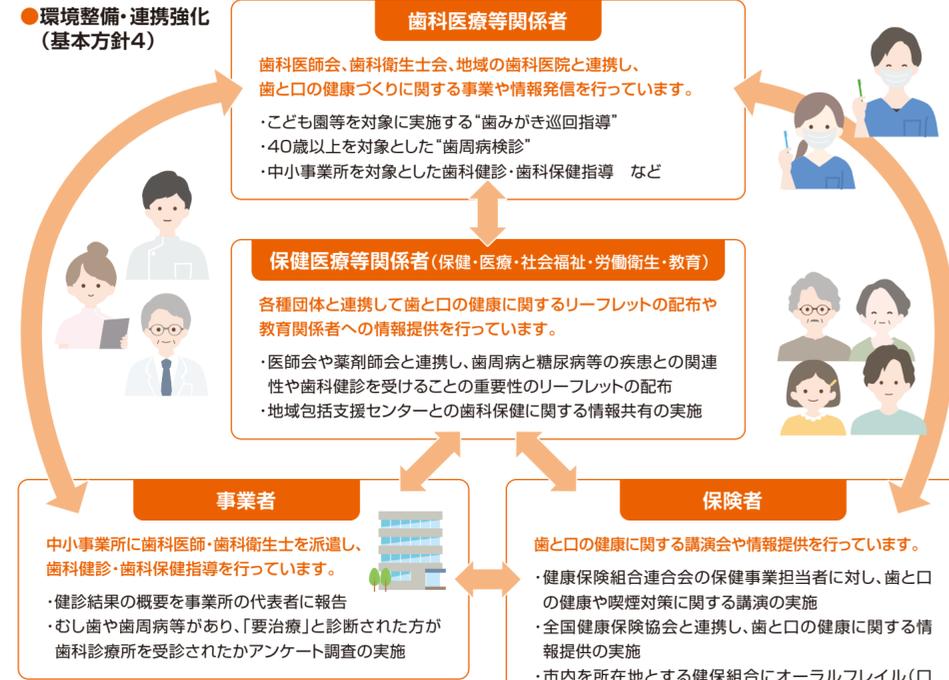
被虐待児

気になる児童がいた際に適切な支援につなげられるよう歯科医師会と連携し、体制を整備します。

本書は P101~

Q “市民の取組”を支える取組は

A 市民が学校や事業所等のあらゆる場面において歯と口の健康づくりを推進できるよう環境整備や関係団体との連携強化を行うほか、データの活用によりエビデンスに基づいた歯科保健施策を展開します。



静岡市 歯と口腔の健康づくり推進計画 中間評価・中間見直し 概要版

発行: 静岡市
編集: 静岡市 保健福祉長寿局 健康福祉部 健康づくり推進課 口腔保健支援センター
〒420-0846 静岡市葵区城東町24-1 城東保健福祉エリア保健所棟1階
電話 054-249-3175 FAX 054-209-1063

発行年月: 令和6年3月

本書はこちらからご覧いただけます▶

URL: <https://www.city.shizuoka.lg.jp/s7463/s003179.html>

静岡市 歯と口腔の健康づくり推進計画

(令和3年度~令和8年度)

令和5年度 中間評価・中間見直し

概要版

いつまでも口から美味しく楽しく安全に食べるために

「健康長寿のまち」実現に向けた「歯と口の健康づくり」

いつでも(乳幼児期から高齢期まで年齢を問わず)、
だれでも(障がいがあっても、要介護状態でも、妊娠中でも)、
どんなときも(平常時に限らず災害時においても)

歯科医療や歯科保健サービスを受けることができ、歯と口の健康づくりに取り組むことができること、
高齢になっても「口から食べたい」という希望を持ち続け、食を楽しめるまちを目指したい…
そんな思いを込め、基本理念やスローガン、基本方針を定めました。

基本理念 「健康長寿のまち」実現に向けた「歯と口の健康づくり」

スローガン いつでも だれでも どんなときも 歯と口の健康づくりに取り組み 美味しく 楽しく 安全に 口から食べることができるまち しずおか

基本方針

- 乳幼児期から高齢期までの歯科疾患の特性に応じた取組
- 障がい児・者、要介護者、妊産婦など特別な配慮が必要な人に対する取組
- 災害時における健康被害の予防及び歯科保健医療提供体制の整備
- 持続可能な歯と口の健康づくりの推進のための環境整備・関係機関の連携強化
- 科学的根拠に基づいた歯科保健施策の展開

Q 中間評価・中間見直しの目的は

A 令和8年度が終期となる本計画は3年目の中間年を迎えました。進捗状況を確認する中間評価を行い、より社会情勢に即した内容に見直しをします。

▶【中間評価】基準と結果

各分野に設定した目標値64のうち今回評価できる52指標を直近の実績値を計画策定時のベースライン値と比較して傾向を評価しました。

評価	基準	結果	割合
達成	すでに最終目標値を達成している(最終目標値が数値の指標のみ)	10	19.2%
改善	改善傾向にある(ベースライン値と比べ+3%以上)	28	53.8%
維持	変わらない(ベースライン値と比べ±3%未満)	7	13.5%
悪化	計画策定時の目標値と比べ悪化した(ベースライン値と比べ-3%以下)	7	13.5%
計		52	100%

改善割合(達成+改善/項目数) **73.0%**

▶【中間見直し】悪化の指標と対応策

悪化した7つの指標については、対策を強化します。また、最終目標値が「全校」「減少」「増加」の指標について見直し、数値を設定します。

指標名	ベースライン値 (R1)	中間実績値 (R4)	最終目標値 (R7)	対応策とR7最終目標値(新)
保護者が仕上げみがきをしている1歳6か月児の割合	97.6%	93.9%	100%	【新規】1歳頃のむし歯予防事業 乳歯のむし歯予防のための行動変容を促すこと等を目的に8か月~1歳2か月頃の親子を対象に教室の実施とオンデマンド動画による情報発信を行います。
歯科専門職による歯の健康教育を行っている小学校数	19/88校 21.6%	12/82校 14.6%	全校	【新規】学童期・思春期の 歯科口腔保健支援事業 小中高校生の歯科口腔保健の推進を図るために児童や生徒、その保護者に情報提供を行うほか、関連する職種(学校歯科医・養護教諭)を対象に研修会を実施します。
むし歯処置未完了者(中学1年生)の割合	41.7%	48.4%	減少	82校 100%
歯科専門職による歯の健康教育を行っている中学校数	4/51校 7.8%	3/50校 6.0%	増加	40.6%
歯科専門職による歯の健康教育を行っている高等学校数	4/19校 21.1%	2/17校 11.8%	増加	10校 20.0%
何でも噛んで食べることができる男性50~54歳の割合	84.2%	81.1%	85.3%	【新規】歯科健診受診勧奨 特定健康診査で「噛みにくい」「噛めない」と回答しているものの、歯科未受診者に対する受診勧奨を行います。
障害福祉サービス等事業所がかかりつけ歯科医を持つ者の割合	66.3%	63.2%	増加	5校 29.4%
				関係課と連携し、定期的な情報提供や各事業時にかかりつけ歯科医を持つことの重要性を説明します。
				70.2%